

意識して見る

1. 変なまゆ

寒さを感じるようになると昆虫や爬虫類も活動しなくなり、鳥ぐらいしか存在に気付かなくなります。しかし、葉が落ちて、夏や秋には見えなかったものが見えるようになります。普段は気に留めないウメノキゴケなどの地衣類がついた石崖や樹幹に目を向けてみましょう。



アカスジシロコケガの繭



アカスジシロコケガ

黒い細棒で檻を組み立てたアカスジシロコケガの繭(まゆ)は、石面や幹に付けられています。長径が3cmばかりのこれは何だというしろものです。中に蛹(さなぎ)がいなければ繭と思えない構造です。毛虫時代の毛を利用しているとのことですが、作り方を見てみたいものです。成虫は6~9月に水銀灯にきます。美しいと思いますが繭とは大きくかけ離れています。

キスジコヤガの繭は、長いところが1cmくらいの、ずんぐりバナナ形でぶら下げてあります。シラホシコヤガの繭はニガウリ形です。いずれも、表面には地衣類をびっしりと貼り付け、カモフラージュしています。これら3種は、幼虫が地衣類を餌としていますが、それだけでなく体表にかじり取って小さくした地衣類をまとうことで化けています。この仲間のガの成虫は大きくありませんが、地衣類を上手に利用し、どっぷり地衣類に依存したガといえます。



キスジコヤガの繭

2. ムラサキシキブとヤブムラサキ

紅葉の中、紫色の実が目立ち始めます。打吹山でのムラサキシキブとヤブムラサキについてみると、やや明るい場所がムラサキシキブ、少し暗い林床がヤブムラサキと生育場所に違いがあるような気もしますが、同所的に見ることができます。ムラサキシキブの実には小さくて、1果穂に多数上向きについていますが、ヤブムラサキは大きくて数個が下向きです。また、ムラサキシキブの葉には毛がなく、より大きな葉のヤブムラサキには毛がありますから識別は容易です。遠くからでも一目でわかります。

ところが、実はムラサキシキブには、ヤブムラサキのように葉に毛がある特徴を持つ種間雑種があり、イヌムラサキシキブとよばれているそうです。開花時期も同じで、花に虫が来ていることからあり得ることもかもしれません。打吹山では確認していませんので、情報が欲しいものです。

種間雑種は、ソメイヨシノのように結実しても繁殖能力がないのが普通です。その代で終わってしまいます。ムラサキシキブの毛がある変異かもしれません。果実や葉、枝別れに違和感を感じたら確かめてみてください。



ムラサキシキブの実



ヤブムラサキの実